

## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月10日

上場取引所 大

上場会社名 松本油脂製薬株式会社

コード番号 4365 URL <http://www.mtmtys.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 木村 直樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 山田 正幸

TEL 072-991-1001

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	19,782	12.8	1,029	131.5	841	△8.2	508	△13.4
22年3月期第3四半期	17,534	△13.5	444	△37.7	916	12.7	586	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	49.91	—
22年3月期第3四半期	57.62	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
23年3月期第3四半期	45,788		37,431	81.3			3,658.72	
22年3月期	45,655		37,913	82.6			3,704.68	

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 37,240百万円 22年3月期 37,713百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
通期	25,800	9.5	1,370	38.6	1,250	△18.8	740	4.7	72.70	

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	11,281,629株	22年3月期	11,281,629株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	1,103,008株	22年3月期	1,101,678株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	10,179,149株	22年3月期3Q	10,180,807株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりますが、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間における我が国経済は、昨年来からの政府の景気刺激策や新興国をはじめとする外需の拡大などでリーマンショック以前の景気を取り戻しつつあります。

当社グループの重要な販売分野であります国内繊維産業におきましては、国際競争力の低下により海外の生産拠点への移行や生産中止が相次ぎ、売上が減少となりました。一方海外では、中国の内需拡大政策に伴い、昨年早い段階で不況前の水準に戻り、アジア地域やその他の地域におきましても順調に持ち直してきております。

非繊維分野におきましては、国内では自動車の大幅減産は緩和されましたが、住宅の販売不振は長期化の様相を示しております。一方海外では、中国をはじめとするアジア諸国での需要は旺盛であり、特に中国、東南アジアの自動車生産は急速に拡大しております。

また、中国をはじめとするアジア諸国での様々な分野での需要の拡大に伴う原料価格の高騰が続いており、製品価格への転嫁が急務となっております。

国内での市場縮小や大幅な円高の進行などマイナス要素はありましたが、当社グループでは売上、利益を確保するため、競争力のある高品質、低価格商品の開発を行うとともに、市場ニーズに合致した商品の早期開発に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高19,782百万円（対前年同四半期比112.8%）、営業利益1,029百万円（対前年同四半期比231.5%）、経常利益841百万円（対前年同四半期比91.8%）、四半期純利益508百万円（対前年同四半期比86.6%）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## ① 日本

日本における当第3四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は19,340百万円、セグメント利益は1,011百万円となりました。

陰イオン界面活性剤の分野におきましては、国内合繊メーカー各社への販売は前年並みとなりました。一方海外向けは主として中国合繊メーカー各社での販売が拡大し、外部顧客に対する売上高は2,203百万円となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、国内では、消費低迷と繊維製品の低価格化による海外シフトの影響でテキスタイル分野の加工量が減少しました。炭素繊維は航空機、産業資材向けを中心に回復し、処理剤の販売が増加しました。また、化学工業分野では洗浄剤原料の販売が増加しました。海外では、特に中国の内需拡大政策が続いており、工業用繊維分野、衣料用分野、弾性繊維用分野ともに好調に推移しており、外部顧客に対する売上高は11,425百万円となりました。

陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、繊維全般の加工が縮小傾向ではありますが、関連加工剤の販売は前年並みを維持しました。化学工業分野では原料価格の高騰で製品価格への転嫁が急務となってまいりましたが、洗浄剤原料の販売は増加し、外部顧客に対する売上高は593百万円となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、繊維関連では、織布向け製織用糊剤の販売は生産が縮小した中で堅調に推移しました。非繊維関連では、化粧品原料が堅調に推移しており、建材関係も着工件数の低迷が続いておりますが、補修用途の拡大で有機高分子製品の出荷は回復傾向にあります。自動車生産は国内減少分を海外の拡大で填補し、ゴム成型用薬剤等の販売も好調であり、外部顧客に対する売上高は5,117百万円となりました。

## ② インドネシア

インドネシアにおける当第3四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は442百万円、セグメント利益は49百万円となりました。

インドネシア国内の繊維産業におきましては、糸値は高騰しておりますが製品価格が下落しており、加工量は減少しております。しかし、輸出向け高級品の生産量は好調に推移し、国内の落ち込みをカバーしております。

陰イオン界面活性剤の分野におきましては、帯電防止剤用途、防着剤用途ともに販売数量では前年度並みとなり、外部顧客に対する売上高は3百万円となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、経糸糊剤併用油剤がスパン織物の回復でもち直し、フィラメント糊剤の輸出が好調に推移いたしました。販売数量は伸びたものの、為替レートの影響により販売金額は減少し、外部顧客に対する売上高は202百万円となりました。

陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、日系アクリル染色加工場の縮小、撤退後の新たな得意先の開拓が遅れており、外部顧客に対する売上高は2百万円となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、自動車、オートバイ向けが順調で、タイヤ用防着剤が堅調に推移しており、外部顧客に対する売上高は232百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という）比132百万円（0.3%）増加して、45,788百万円となりました。流動資産は前期末比1,079百万円（3.7%）増加の30,026百万円、固定資産は前期末比947百万円（5.7%）減少の15,761百万円となりました。

流動資産増加の主な要因は、有価証券が1,327百万円、現金及び預金が161百万円前期末よりそれぞれ減少したものの、受取手形及び売掛金が1,459百万円、その他が1,121百万円前期末よりそれぞれ増加したことによるものであります。

固定資産減少の主な要因は、繰延税金資産が213百万円前期末より増加したものの、投資有価証券が795百万円、機械装置及び運搬具が206百万円、建物及び構築物が110百万円前期末よりそれぞれ減少したことによるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の合計は、前期末比613百万円（7.9%）増加の8,356百万円となりました。流動負債は、前期末比553百万円（7.5%）増加の7,946百万円、固定負債は前期末比60百万円（17.2%）増加の409百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、未払法人税等が534百万円、賞与引当金が142百万円前期末よりそれぞれ減少したものの、買掛金が925百万円、その他が204百万円、短期借入金が100百万円前期末よりそれぞれ増加したことによるものであります。

固定負債増加の主な要因は、資産除去債務が91百万円、第1四半期連結会計期間より発生したことによるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前期末比481百万円(1.3%)減少して37,431百万円となりました。

純資産減少の主な要因は、その他有価証券評価差額金が459百万円前期末より減少したことによるものであります。

この結果自己資本比率は、前期末の82.6%から81.3%となりました。期末発行済株式総数に基づく1株当たり純資産額は、前期末の3,704円68銭から3,658円72銭となりました。

## (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,889百万円減少(前年同四半期は2,243百万円の減少)し、14,501百万円となりました。

当四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは449百万円の現金及び現金同等物の増加(前年同四半期は4,200百万円の増加)となりました。収入の主な内訳は、仕入債務の増加928百万円、税金等調整前四半期純利益838百万円、減価償却費623百万円、その他の流動負債の増加296百万円、その他の営業外損失249百万円、為替差損140百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加1,465百万円、法人税等の支払額819百万円、賞与引当金の減少142百万円であります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは1,562百万円の現金及び現金同等物の減少(前年同四半期は5,653百万円の減少)となりました。収入の主な内訳は、有価証券の償還による収入1,000百万円、投資有価証券の売却による収入475百万円、預け金の払戻による収入121百万円であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出1,400百万円、預け金の預入による支出1,017百万円、投資有価証券の取得による支出445百万円、有形固定資産の取得による支出306百万円であります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは424百万円の現金及び現金同等物の減少(前年同四半期は521百万円の減少)となりました。これは、収入の内訳は、短期借入による収入100百万円であり、支出の主な内訳は、配当金の支払による支出508百万円であります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、経済情勢及び為替の動向も不透明でありますので、平成22年11月9日公表の通期の業績予想を変更しておりません。今後第4四半期の業績動向等も勘案したうえで、通期業績予想の修正を行う必要があると判断される場合には、速やかに公表いたします。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ・簡便な会計処理

#### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

なお、原価計算については簡便な方法によっております。

#### ③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### ④経過勘定項目の算定方法

固定費的な要素が大きいものについては、合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

#### ⑤法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 1. 資産除去債務に関する会計基準等の適用

第1四半期連結累計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、売上総利益は7百万円、営業利益及び経常利益は8百万円、税金等調整前四半期純利益は31百万円それぞれ減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は91百万円であります。

#### 2. 重要な減価償却資産の減価償却の方法の変更

##### 有形固定資産

当社は、前連結会計年度より、機械装置の減価償却方法については定率法から定額法に変更したため、前第3四半期連結累計期間と当第3四半期連結累計期間で機械装置の減価償却方法が異なっております。なお、前第3四半期連結累計期間に変更後の減価償却方法を適用した場合、当該期間の売上総利益及び営業利益は、それぞれ205百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ206百万円増加いたします。

#### 3. 表示方法の変更

##### 四半期連結損益計算書関係

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用に伴い、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,856	15,018
受取手形及び売掛金	8,303	6,844
有価証券	1,885	3,212
商品及び製品	1,604	1,669
仕掛品	480	381
原材料及び貯蔵品	1,039	1,013
繰延税金資産	452	521
その他	1,410	289
貸倒引当金	△5	△4
流動資産合計	30,026	28,946
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,213	6,169
減価償却累計額	△3,608	△3,454
建物及び構築物（純額）	2,604	2,714
機械装置及び運搬具	9,810	9,722
減価償却累計額	△7,770	△7,475
機械装置及び運搬具（純額）	2,040	2,246
土地	531	532
建設仮勘定	19	2
その他	1,518	1,526
減価償却累計額	△1,354	△1,342
その他（純額）	163	184
有形固定資産合計	5,360	5,681
無形固定資産		
投資その他の資産	17	22
投資有価証券	9,216	10,012
長期貸付金	62	97
繰延税金資産	524	311
その他	588	592
貸倒引当金	△7	△8
投資その他の資産合計	10,384	11,005
固定資産合計	15,761	16,709
資産合計	45,788	45,655

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,132	5,207
短期借入金	800	700
未払法人税等	13	547
賞与引当金	142	284
その他	858	653
流動負債合計	7,946	7,393
固定負債		
退職給付引当金	227	261
資産除去債務	91	—
その他	90	88
固定負債合計	409	349
負債合計	8,356	7,742
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,090	6,090
資本剰余金	6,517	6,517
利益剰余金	27,361	27,362
自己株式	△1,744	△1,741
株主資本合計	38,225	38,228
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△786	△327
為替換算調整勘定	△197	△187
評価・換算差額等合計	△984	△514
少数株主持分	191	199
純資産合計	37,431	37,913
負債純資産合計	45,788	45,655

(2) 四半期連結損益計算書  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	17,534	19,782
売上原価	14,170	15,855
売上総利益	3,364	3,927
販売費及び一般管理費	2,920	2,898
営業利益	444	1,029
営業外収益		
受取利息	255	146
受取配当金	43	51
持分法による投資利益	2	19
投資事業組合運用益	149	—
その他	144	94
営業外収益合計	596	312
営業外費用		
支払利息	6	5
投資事業組合運用損	—	228
為替差損	110	256
その他	7	10
営業外費用合計	124	500
経常利益	916	841
特別利益		
投資有価証券売却益	4	26
貸倒引当金戻入額	5	0
特別利益合計	9	26
特別損失		
固定資産除却損	2	6
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	23
特別損失合計	2	29
税金等調整前四半期純利益	923	838
法人税、住民税及び事業税	304	149
法人税等調整額	7	169
法人税等合計	311	318
少数株主損益調整前四半期純利益	—	519
少数株主利益	24	11
四半期純利益	586	508

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	923	838
減価償却費	858	623
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△9	0
受取利息及び受取配当金	△298	△197
支払利息	6	5
為替差損益(△は益)	98	140
持分法による投資損益(△は益)	△2	△19
売上債権の増減額(△は増加)	△1,747	△1,465
たな卸資産の増減額(△は増加)	332	△65
仕入債務の増減額(△は減少)	1,368	928
投資有価証券売却損益(△は益)	△4	△26
賞与引当金の増減額(△は減少)	△160	△142
退職給付引当金の増減額(△は減少)	16	△36
有形固定資産除却損	2	6
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	23
その他の営業外損益(△は益)	—	249
未払消費税等の増減額(△は減少)	91	△29
その他の流動資産の増減額(△は増加)	2,959	△57
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△420	296
小計	4,015	1,070
利息及び配当金の受取額	301	202
利息の支払額	△4	△3
法人税等の支払額	△111	△819
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,200	449

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△1,000	—
有形固定資産の取得による支出	△349	△306
有形固定資産の売却による収入	0	1
投資有価証券の取得による支出	△298	△445
投資有価証券の売却による収入	22	475
有価証券の償還による収入	—	1,000
定期預金の預入による支出	△4,000	△1,400
関係会社株式の取得による支出	△44	—
預け金の預入による支出	—	△1,017
預け金の払戻による収入	—	121
短期貸付金の回収による収入	—	8
長期貸付けによる支出	—	△1
長期貸付金の回収による収入	46	0
保険積立金の積立による支出	△58	△7
保険積立金の解約による収入	—	8
保険積立金の払戻による収入	18	—
その他	9	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,653	△1,562
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	100
自己株式の取得による支出	△2	△2
配当金の支払額	△509	△508
少数株主への配当金の支払額	△9	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△521	△424
現金及び現金同等物に係る換算差額	△269	△351
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,243	△1,889
現金及び現金同等物の期首残高	13,288	16,390
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,044	14,501

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## 【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	界面活性剤 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	12,670	4,863	17,534	—	17,534
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,670	4,863	17,534	—	17,534
営業利益	289	155	444	—	444

(注) 事業区分の方法及び各区分に属する主要な製品の名称

事業区分の方法…製品の種類別区分による

区分に属する主要な製品の名称

界面活性剤……化合繊維糸紡績用油剤、織布用経糸油剤、帯電防止剤、香粧品原料

その他……経糸用糊剤、触感向上剤

## 【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	インドネシア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,074	460	17,534	—	17,534
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	93	33	127	(127)	—
計	17,168	493	17,661	(127)	17,534
営業利益	350	78	429	14	444

## 【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	6,846	703	7,549
II 連結売上高(百万円)	—	—	17,534
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	39.0	4.0	43.1

(注) 1. 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

国又は地域の区分の方法 地理的近接度による

各区分に属する主な国又は地域 アジア インドネシア、タイ、台湾、中国、韓国

その他の地域 アメリカ合衆国、メキシコ、フランス、イギリス

2. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に界面活性剤を生産・販売しており、国内においては当社が、インドネシアにおいてはマツモトユシ・インドネシアがそれぞれ独立した経営単位として各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「インドネシア」の2つを報告セグメントとしております。各報告セグメントでは、界面活性剤のほか、その他の製品を生産・販売しております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
外部顧客への売上高	19,340	442	19,782
セグメント間の内部売上高 又は振替高	173	40	213
計	19,513	482	19,996
セグメント利益	1,011	49	1,060

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,060
セグメント間取引消去	△21
棚卸資産の調整額	△9
四半期連結損益計算書の営業利益	1,029

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結累計期間において、報告セグメントの変更等はありません。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

（追加情報）

第1四半期連結累計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

該当事項はありません。